

Contents

静穏が満ちるまで	*3
作家の悩み	*4
祭りの後解散	*5
スターターキット	*6
未練がましい男	*7
転ばぬ先の杖	*8
お父さんの言うことには	*10
五月の朝に	*11
一人上手さん	*12
ヒキコの述懐	*13
ソーシャル・ディスタンス	*14
病床の救い主	*15
職人手仕事	*16
言霊メモ	*17
我発見献身的半生	*18

静穏が満ちるまで

騒がしく崩壊寸前のクラスで
教師が一喝しまず黙らせる
からの目をつぶって一分間黙とう

すると不思議な静けさが満ち
心の平静を取り戻した

というようなテクニックを使う教師は
今日日どれほどいるだろうか

まあ国全体にも言える
酔っぱらっているという事実

そして必要なのは
繋がるではなく剥がすこと
それは沈黙によってなされ

剥がれればそれほど無茶に飲まずとも好い
はずなのだっ

という算段に基づき繰り返される波状の波よ
岸壁を削り流れ出す抗えぬ力よ

作家の悩み

たとえば自分が書くものが
書いたそばから誰かに読まれている
ハッキングなどされて
と感じていたら
およそいいものなど書けないであろう

集中が、意識が乱れるのだ

ここはスタンドアローン PC が必要だった
もっと言えば原稿用紙から始めたいくらいだった

薬で捕まった T 代さんが
ネット TV にぼつぼつ出始めるたびに
捕まってしまうような気がするの
は
そうかもしれない

俗受けの波にのまれるのは
ラリリでもなきややれないや

以上のことから創作に必要なのは
静かな時間ということになりそうです
たとえそれが喧騒を巻き起こそうとも

祭りの後解散

人はお祭り騒ぎをやらずにはいられない

人生は茶番ではないが

茶番めかして見せたいテレビ

成功秘話はドラマ仕立て

実際にはなかった必然性を時空軸に与えるのだから

やらせっぽさはぬぐえない

おお、冗談にさせないぞ

僕の生活は

スターターキット

早朝日が昇る前、まだ深夜に目が覚める

そしておもむろに PC に向かいゲームを立ち上げる
若いころに感じていた解放感はない

コーヒーを一杯入れてゲームとツイッターやら
同時進行で眺める

父母の世代なら新聞を読むのと同じ作業であろう
What's going on in the world というわけだ

小一時間もすると夜が白んでくる

いいニュースはない
逐一何か言うほどの気力もない

やがて雨戸を開けごみ捨てに行き
朝食の用意ができる余裕があればして
なければレトルトカレーを温める算段を

このころに大体便意を催しお通じが
すっきりとした気分で一日が始まる

できることをやるだけさ
そんなこんなで日が暮れる

未練がましい男

結婚するのはいい

けれど僕をどう処理するかは課題だった

善玉として処理するか、悪玉としてか

悪玉として処理した場合

あなたは子供の目の前できめえという親になりかねず

そうなれば情操教育上よい影響なわけがなく

善玉として処理した場合

途中退場者のような気分で過ごしていくのか

それらすべてが割とどうでもいいことなのだが

ともかくおめでとう

僕が現世で享受できなかった楽しみは

他の人が味わってくれればうれしいことだ

あまり僕に石を投げないでくれれば

転ばぬ先の杖

それは疫病学の分野だが
これは心理学の分野である

恐慌状態に陥った人々との関係を？
マスクは実際の効果というよりもむしろ
他人を安心させるため
ひいては己の身を守るため

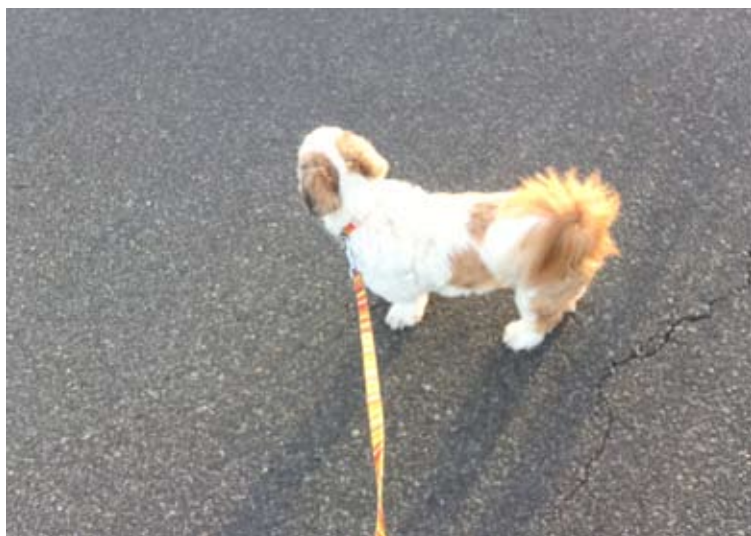
街から人が消えて
閑散とした中歩き
役所で小言を言われて

くう、こんな風邪のちょっとだけ兄貴分みたいな
ウィルスのせいで

コロナなんて怖くないもんねっ
外出しまくっちゃうもんね
チーン

などということにもなりえ

野蛮人たる私は情報の恐怖もそこそこに
おいしいご飯にポカポカお風呂で
自己の免疫力にかけるのみなのです



お父さんの言うことには

パパが偉人をほめるとふうんと聞く

当時の社会情勢や趨勢を凄く読んでいる
と語気を強めるパパに

ほむほむと首肯する

パパは今の情勢も趨勢も読めていないのであるが

こうして現代、偉人軍団が押し寄せ
たかどうかは知らないが

僕はもっと踏みつけられた無名の人達の
声が聴きたくて

インターネットを開いている

五月の朝に

新緑が愛でられもせず萌えている

型未知でこんなん考慮しとらんよ

ふざけるなやってられるか息を巻き

もういやだ堪忍してと泣いてみて

可笑しくて泣いて笑って繰り返し

引くことも足すこともない今日だから

一人上手さん

自己評価と他者評価の乖離^{かいり}
己の評価がことさら高く
他者からは評価されていない場合

彼は不断に鼻っ柱を強くし
不機嫌な具合で何とも残念な
これが未成年だっ

こういう場合解決策はその人が
自分の可能性を他者に納得せしめるか
おう俺はダメなんだと凹むかだ

そして毎日エゴサーチ
僕の名前の載ってない

ああ、そうだよ
名前を言ってはいけないあの人だからね
と、己を慰めるすべを知っている

ここで風船のように膨れ上がった
イメージにとらわれず
内実を見ていきたい

実のある仕事をしているね
と自分で自分をほめている

ヒキコの述懐

お付き合いしたい人グループにも

おかしいプライドが邪魔して参加できず

今はいいことかもしれないが

家から一歩も出ることもよくできず

こうしてうん十年過ぎ去り

こうなればある日妙齢の女性が

家の前に立っていてインターホンを鳴らす

というくらいしか出会いの可能性は

残っておらず

そんなことはない

こうして僕らはこんなにも

一人一人だ

ソーシャル・ディスタンス

身体が元気になってきたときには気を付けなければいけません。うまいことを書けたときにも気を付けなければなりません。またそれで人々が喜びはしゃいだときにも気を付けなければなりません。つまるところ調子に乗っていいことになったためしがないからです。うえ～いカンパイになるのは目に見えているのです。そしてまた下手を打ったときにも気を付けなければなりません。やってられるかで一杯になるからです。ハードワークも同様です。こうして地雷の道を行く。もう歩けないよ。

病床の救い主

身体が深刻に痛い
部屋で痛い痛い呻いている

というと神様からはどう聞こえるかと考える
痛い痛いのは
ここに居たい居たいと聞こえたりはせなんだか

と盗撮してても僕がどれほど痛いかは
他の人にはわからないのだ

このままでは救世主が急逝されましたというオチしか
見えもしない

めっさイヤ
そして化けて出る
うらめしや

そんな仇なすことばかり考えていないで
あの子が初めて自分の言葉で書いている

よくわからないけれど
けなしていつてはいけない

職人手仕事

梅雨

紙がうねる

髪もうねる

本作りでいい紙に文章を印刷して
折々、束ねては紐閉じしていく
古風な感じが気に入っている
大量生産はできない

父が私の論文も本にしてくれるかと
言ってきたのでいいよと言うと
ではざっと百部くらいと

そういうとこだぞ
製本の仕方を見て百部とは
人のこと見てるのかなっていう

印刷所に頼みましょう
遺稿にならないか心配だから
その話はまた今度

巻いた髪になるのは
身体が弱っているからだとか
カールして喜んでばかりも
いられない

言霊メモ

僕も覚えがあります
素行が悪いとそこそこで
辛く当たられるのです

この監視社会
おてんとうさまは見ているのだ
故の言霊なのだ

悪いことは言えない
自分がオタクだからモテないって
思ってるでしょ

性格がサイテーだからよ
という映画か何かのワンシーンを
思い出し

こうまで詰められている
今この時点が
憤慨ものなのだと

一人ごちるのであった

我発見献身的半生

介護がこんなに辛いとは
今までの僕、夢思わなんだ

ボケながらなお
イキってなければ死んでしまう病

死んでほしくないので
さりとて忍耐の限界でもあるので

こうなればペシペシから
ボコボコへ
GoTo キャンペーンはすぐ近く (?)

いやいや、そんなことないよ
ワタシ、全然怒ってないよ

こういう時に幼少時の復讐という
ファクターがある

仲が悪ければそんな場合もある
やもしれぬ

まあ言うほど感謝しているので
今日も僕は雨戸を開けて
さびれた家に陽を入れる



言靈メロ



2020 年 8 月 7 日初版発行

著 者 多田 龍介

発行者 多田 龍介

発行所 明 水 工 房

©Ryusuke Tada 2020